

ボランティアセミナー



趣旨 青少年教育施設でのボランティア活動について目的や内容を理解するとともに、意欲を行動につなげる具体的な手立てを学び取ることで、ボランティア活動の実践力を身に付ける。

企画運営のポイント

1. オンラインと実習を組み合わせたり複数の日程を設定したりすることでより多くの学生が参加しやすくなった。
2. 企画したものを実践する機会を設定し、ボランティア活動について具体的なイメージが湧くようにした。

期日 令和4年5月6日（金）～5月29日（日）

対象 高校生、大学生、社会人

人数 高校生14名、大学生30名 計44名

内容

5/6（金）～5/25（水）

①オンデマンドⅠ：ボランティア活動の意義①（動画視聴後、課題提出）

講師 NPO 法人 ezorock 草野 竹史 氏

②オンデマンドⅡ：安全管理①（動画視聴）

講師 NPO 法人 どんころ野外学校 新野 和也 氏

③オンデマンドⅢ：青少年教育施設の現状と運営①（動画視聴後、課題提出）

講師 国立日高青少年自然の家 所長 山下 達也

5/14（土）、5/21（土）

④実習Ⅰ：ボランティア活動の技術

⑤実習Ⅱ：青少年教育

⑥実習Ⅲ：安全管理②

講師 日高西部消防組合 消防隊員

⑦実習Ⅳ：ボランティア活動の意義②

5/28（土）、5/29（日）

⑧オンラインⅠ：青少年教育施設の現状と運営②

⑨オンラインⅡ：青少年教育施設におけるボランティア活動



参加者の声

- ・実習に参加したことで、より具体的なイメージが湧き、問題解決を考えるうえでの達成感がありました。
- ・学校も学年も異なる人と交流しつつ、ボランティアについての知識も増やすことが出来て良かったです。また、レク企画では、自分たちで計画して実際に取り組んでみて難しいところや課題がありました。そのような勉強をできたことが何より1番大きい活動だと考えました。
- ・自然に対しての考え方が変わり、自然の中で生まれる会話や人格形成など普段の生活では味わうことのできない経験が出来て、自分の中で新たな価値観が生まれたからこれはみんなもするべきだと思いました。
- ・セミナーを通してボランティア活動に対する意識が変わりました。

【成果】

- ・実習やオンラインの日時を複数日設定することで学生が参加しやすい日程となった。
- ・当機構のボランティア活動や子どもとかかわる際の視点などについて学生同士で交流しながら学びを深めていた。

【課題】

- ・大雪青少年交流の家と開催時期が重なってしまったので、次年度の実施について検討する際に大雪のボランティア・コーディネーターと連携を取りながら2施設で学生がボランティアセミナーに参加しやすい体制を作る。
- ・実習の集合が7時と朝早かったため負担だった学生もいた。次年度は日程を含めて検討する。